

# 忘れない、そして寄り添い続ける

東日本大震災から早くも3年の月日が流れました。

一瞬のうちに1万数千人もの尊い生命が失われ、30万人が家を奪われた未曾有の災害。

津波に破壊された町並み、何もかも足りない避難所生活、被災者の悲痛な声……。

発災当初の光景は今も脳裏に焼き付いて離れません。

この3年、私たち公明党は「大衆とともに」との立党精神のままに、

被災者の声を国政へとつなげ、復興を前に進めてきました。

しかし、いまだ多くの人々が仮設住宅などでの避難生活を余儀無くされ、

原発事故による言われなき風評被害も続いています。

その一方で、震災の記憶の風化が懸念されています。

私たちは、日本に吹く“二つの風”——すなわち、「風化」と「風評」と敢然と闘い、

復興を一段と加速させなければなりません。

すべての被災者が真実の復興を成し遂げるその日まで、「忘れない、そして寄り添い続ける」

そんな思いから、写真展「『人間の復興』へ」を企画しました。

発災以来、被災地を取材し続けている公明新聞東日本大震災取材班の写真を通し、

いまだ苦闘が続く被災者に思いを馳せ、早期復興への願いを共有して頂ければ幸甚です。

本年11月17日に、公明党は結党50周年を迎えます。

政治を民衆の手に取り戻して欲しいとの「衆望」に応えて誕生した公明党が、

この50年間に培ってきた全てを注ぎ込む決意で、

復興へと闘い続けてまいります。

公明党幹事長・東北方面議長 井上義久